

# GIS NEWS LETTER

地理情報システム学会ニュースレター

第98号

発行日 ● 2016年6月20日  
発行 ● 地理情報システム学会事務局

## 目次

会長就任にあたって	1p
第25回研究発表大会のお知らせ	2p
代議員(社員)総会・理事会報告	4p
委員会報告	6p

正味財産増減報告書・収支予算書(收支)	7p
学会後援行事等のお知らせ	9p
事務局からのお知らせ	9p

## 会長就任にあたって

地理情報システム学会会長 玉川英則(首都大学東京)

5月28日に開催された社員総会で理事に選任され、理事会のご推举により会長を務めることになりました。当学会がまだ法人化される以前の時代に事務局長を仰せつかつて以来、理事の一員として、大会実行委員会、編集委員会、涉外委員会等に関わらせて頂きましたが、今回、学会をまとめる立場となり、その責任の重さを改めて感じているところです。こういう場合、希望と不安が入り混じった… というような表現をよく使うのですが、私の場合、自分の力不足に起因する不安の割合が90%と言えましょうか。



玉川英則 学会会長

本年は、当学会設立25周年です。記念事業という喫緊の課題があり、すでに矢野前会長を中心に記念誌の編纂等が進め

られていますが、10月15、16日の学会の年次大会に合わせて開催予定の記念行事を無事運営できるかどうか…、切に皆様のご協力をお願い申し上げる次第です。

さて、そのような中でも今回謹んで会長職をお受けしたのは、私なりのビジョンがあつてのことです。25周年という時間の重みを受け止めながら、次の世代・次の時代へのステップとなるような試みができればと考えています。

新たなステップとは、包括した言い方をすれば、コミュニケーションの活性化ということになるかと思います。世代間では若手会員の活躍の場を広げ、その声が反映されるようにしたいと思います。

学協会間に於いて言えば、地球惑星科学連合、地理関連学会連合、防災学術連携体等との連携のさらなる展開が考えられます。

産学官の間については、GISCA等の接点がありますが、それを進展させるとともに新たな「よき関係」を模索していくことも望されます。中央と地方あるいは地方間の連携強化も重要な課題ですし、国際的な側面では、今年の大会時に発会式を予定している、日・韓・台のGIS関係3団体による国際学会の発足は大きなエポックになることだと思います。

当方、直近では、矢野前会長のもと2年間、副会長兼財務担当理事を務めておりましたが、幸いその間、学会の財政は極めて健全な状態で推移しました。それ自体は望ましいことですですが、反面、委員会や分科会(SIG)、さらに地方支部の活性化のために適切に利用して頂くことも重要だと感じております。様々な立場、年代、国籍…の方々が一堂に集う学会の特長を生かした活動を推進する財政上のしくみも重要です。

ところで、一般社会のGISに対する関心について、ある興味深い指標があります。日本経済新聞における「GIS」または

「地理情報システム」というキーワードを含む記事数は、2003年頃の年間約60-70件をピークとしてここ10年余り減少を続け、最近では数件程度と低迷しています。これだけ見ると、GISの注目度が近年落ちているようにも思えます。

しかし、その一方で、ビッグ・データ、マイクロ・ジオ・データ、ユビキタス・コンピューティング、ウェアラブル・センサー、ITS、自動運転、ドローン等々、何らかの意味でGISに関連する、又はGISを応用した事物のキーワードは頻繁に耳にするようになって来ていますし、災害の現場で電子地図が活用されるといったことも珍しくはなくなっています。また、理事会や総会でも話題になりましたが、2022年度から高校教育において地理が必修化され、の中ではGISに関する内容もふんだんに盛り込まれることになるようです。

まさにGISは、もはや、それそのものが特別な技術として話題になることはないけれど、様々な場面に入り込み定着化する中で、新たな展開が図られる時期に突入していると言えるでしょう。学会のあり方も、その状況を踏まえながら考えていかねばなりません。前述の繰り返しになりますが、改めて学会員の皆様のご協力、そして本学会でのご活躍をお願いして就任のご挨拶とさせて頂きます。

## 第25回研究発表大会のお知らせ

第25回地理情報システム学会研究発表大会は、2016年10月15・16日（土・日）、立正大学品川キャンパスにて開催されます。本年度も、通常の研究発表（講演発表、ポスター発表）に加え、多彩なセッション企画（シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセッション、チュートリアルセッション、GIS技術紹介セッション）などのプログラムを予定しております。奮ってお申し込み下さい。

### 発表申込スケジュール

#### セッションの企画申込期限

7月15日（金）まで

#### 講演・ポスターの発表申込期間

7月1日（金）～7月15日（金）正午

#### 講演論文集用原稿PDFのアップロード期間

7月1日（金）～8月31日（水）正午

#### 事務局宛送付書類の提出期限

8月31日（水）当日消印有効

#### 機器展示および業界説明コーナーの申込期限

8月15日（月）まで

### 参加費

#### 学術大会（講演論文集のCD-ROM代金を含む）

##### 正会員/賛助会員枠の参加者：

事前登録4,000円（当日受付6,000円）

学生会員：事前登録3,000円（当日受付4,000円）

非会員（一般および大学生以上）：

事前登録7,000円（当日受付8,000円）

高校生以下、70歳以上：

無料（必ず年齢を証明するものをご呈示下さい）

### 懇親会

#### 会場：立正大学品川キャンパス7号館「レパスト」

参加費：未定（決定次第、Web等でご案内します）

・事前登録、当日受付とも、領収書を発行いたします。

### 事前登録

受付期間：9月25日（日）まで

大会Webページのリンクから、事前登録申込フォームに必要事項をご登録の上、代金をお振り込みください。

※期日までに入金が確認されない場合、事前受付はキャンセルとなります

※昼食（お弁当）の手配はありません。土曜日は、学食が営業しています

### 1. セッション企画

シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセッション、チュートリアルセッション、GIS技術紹介セッションなど、特に形式は問いません。1セッション〔1時間40分〕を単位とし、複数セッションにまたがることも可能です。

セッション企画は、個人会員・賛助会員の方々からご提案いただけます。特に各分科会の方々は、日常の研究成果を発表するまたとない機会ですので、積極的なご参加をお願いいたします。

### ■ セッション企画申込

受付期間：7月15日（金）まで

申込先：井上大会実行委員長宛（rinoue@tohoku.ac.jp）

申込要領：下記の情報をメールでお知らせください。

- ・セッション企画名
- ・種類（シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセッションなど）
- ・代表者の氏名、所属、メールアドレス
- ・概要（400字程度）
- ・必要セッション数
- ・必要機材（PCなど）
- ・座席数

セッション企画の発表可否は、8月1日（月）までにメールでご連絡致します。なお、会場設備などにより、ご希望に添えない場合がございますので、予めご了承下さい。

### 2. 研究発表

講演発表とポスター発表があります。講演論文集はCD-ROMで発行します。

講演発表：論文提出が必要です。論文は、地理情報システムに関する理論研究・応用研究の成果で、原則として未発表のものに限ります。また、独創性・完結性がないものの発表は認めません。

**ポスター発表**: 研究形成段階の討論や調査・活動報告などでも結構です。自由で活発な情報交換の場としてご活用下さい。論文の提出は必須ではありませんが、提出された原稿は講演論文集に収録されます。

講演発表・ポスター発表共に、商業宣伝的な内容は認めません。機器展示や GIS 製品・利用例紹介セッションにお申し込み下さい。

なお、平成 27 年度より、講演発表・ポスター発表の発表者（第一著者）に、測量系 CPD 学習プログラムのポイントが付与されます。大会で発表した場合、(1)「GIS 上級技術者」への申請や、(2)「測量系 CPD 学習プログラム」への登録が可能です。希望者は大会当日、受付までお申し出下さい。

## ■ 応募資格

- (1) どなたでも発表できます。ただし、発表者または共同研究者（連名者）のうち、少なくとも 1 名は学会の個人会員（正会員または学生会員）でなければなりません。また、賛助会員は、1 口につき個人会員 1 名分の発表資格を有するものとみなします。
- (2) 発表者となるのは、賛助会員枠を含めても 1 口につき 1 題に限ります。ただし、以下の場合は、発表の重複が認められます。
  - ・ 複数の発表について共同研究者（連名者）となること。
  - ・ 同一題目で講演発表とポスター発表を行うこと。
  - ・ 通常セッションと特別セッションの両方で発表を行うこと。
- (3) 大会発表会場で指定日時に発表できること。発表日時の指定は受け付けません。また、会場の都合により発表総数を制限する場合があります。
- (4) 会員は、2016 年度までの年会費完納者であること。

## ■ 発表申し込み手続き

### 1. アブストラクトの提出

受付期間: 7月 1 日（金）～15 日（金）正午（必着）

EasyChair(<https://easychair.org/conferences/?conf=gisa2016>) で、GISA2016 を選んで申込を行って下さい。

- ※ EasyChair の利用方法は、大会 Web ページの説明書をご覧下さい。
- ※ 記入された氏名・論題が、ニュースレター及び大会 Web ページのプログラムと CD-ROM に掲載されます。7 月 16 日以降の修正は一切受け付けませんので、予めご了承下さい。

発表の可否は、8 月 1 日（月）までに学会 Web ページに掲載されるプログラム（予定）にてご確認下さい。個別のご連絡は行いませんのでご注意下さい。

### 2. 講演論文集用原稿の提出

受付期間: 7 月 1 日（金）～8 月 31 日（水）正午（必着）

## 【EasyChair にアップロード】

### (1) 発表論文原稿 (PDF)

作成要領は、大会 Web ページ掲載のテンプレートファイルをご活用下さい。

## 【学会事務局宛に 2 点を郵送】

### (1) 上記発表論文原稿の印刷物 1 部

（両面印刷を推奨します。セッション司会者に事前送付します）

※ 大会優秀発表賞にエントリーする者は、2 部  
（両面印刷を推奨します。司会者および審査員に事前送付します）

### (2) 著作権譲渡契約書（直筆の署名が必要）

（大会 Web ページ掲載の書式をご覧下さい）

講演論文集 CD-ROM 作成の日程のため、受付期間外に到着した原稿は一切受け付けられません。発表を取り消させて頂きますので、予めご了承下さい。

- ・ 発表論文原稿の PDF は、そのまま印刷に耐える品質のものをお願ひいたします。
- ・ 使用言語は日本語または英語とします。
- ・ 原稿の仕上がりサイズは A4 版 4 枚とします。
- ・ 発表者に連絡がつきにくい可能性がある場合は、申込書に確実な連絡先も明記して下さい。原稿の不備等で連絡を差し上げる場合があります。
- ・ 発表原稿の編集・出版の権利は、地理情報システム学会に帰属します。

## 3. International Association of Geo-infromatics (IAG' i)

大会初日（予定）に、International Association of Geo-infromatics (IAG' i) の発会式および国際シンポジウムがあります。応募要領は「2. 研究発表」と同じですが、論文および発表は英語に限ります。また、発表者が他のセッションの発表者と重複しても構いません。

国内開催の貴重な国際シンポジウムの場として、この機会に積極的に海外の研究者との交流をお持ちください。

## 4. 第 12 回大会優秀発表賞

学生会員の発表レベル向上を図るために、本年度も「大会優秀発表賞」を設けます。以下の条件を満たす方が対象となります。

- ・ 本学会の学生会員であること（2016 年 7 月 15 日までに事務局に入会届が到着した方を含みます。ただし、2016 年度までの年会費完納者）
- ・ 修士号未修得であること
- ・ 講演の発表者であること

研究（論文）内容や発表技術の優秀者からセッション司会者が受賞候補者を推薦し、学会賞委員会の中に設置される大会発表賞小委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者

数は特に定めません。

受賞者には賞状を後日送付し、GISA ニューズレター100 号に氏名と所属を公表します。

また、『GIS-理論と応用』Vol. 24-No. 2 に発表要旨を掲載（モノクロ印刷のみ）します。受賞者は11月10日(木)までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

## 5. 第5回ポスターセッション賞

ポスターセッションでの議論の活性化を図るため、本年度も「ポスターセッション賞」を設けます。ポスターセッション参加者全員が審査の対象です。審査方法は、郵送（事前登録）・受付（当日受付）でお渡しする審査用紙をご覧下さい。

受賞者には賞状を後日送付し、GISA ニューズレター100 号に氏名と所属を公表します。

また、『GIS-理論と応用』Vol. 24-No. 2 に発表要旨を掲載（モノクロ印刷のみ）します。受賞者は11月10日(木)までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

## 6. 機器展示・業界説明コーナー

**機器展示:** PC、または、android/iOS タブレット上で稼動する GIS のデモソフトの展示。

**業界説明コーナー:** 学生に会社の業務内容を説明し、仕事内容を理解してもらうための意見交換の場としてご利用ください。

### ■ 展示申込

**受付期間:** 7月1日(金)～8月15日(月)

※8月1日(月)までの受付分は、展示概要をニュースレター99号に掲載します。  
(以降の受付も、会場配布パンフレット、及び、大会 Web ページには掲載します。)

**応募資格:** 学会賛助会員に限ります。出展費用は無料です。

**応募要領:** 以下を明記の上、E-mail にて事務局宛にお申し込み下さい。

- ①会社名
- ②担当者名
- ③連絡先電話番号、E-mail
- ④展示ソフト名称（業界説明コーナー出展の場合  
は不要）
- ⑤展示概要（200字程度、ニュースレターや会場  
配布のパンフレット及び大会 Web ページに掲  
載します）
- ⑥必要電源の個数

出展可否の連絡：9月23日(金)までに展示要項と共にE-mail で通知します。

※会場の都合により、各日の展示件数、及び、1社当たりの機器構成（電気容量）について、事務局が調整することがあります。

※業界説明コーナーは、パンフレット設置等のスペースがあれば、大会直前のお申込みでも受けます。事務局までご相談ください。

## 【2016年度 GISA 学会賞募集】(既報)

毎年、秋の研究発表大会で表彰が行われる「地理情報システム学会賞」5部門（研究奨励、学術論文、ソフトウェア・データ、教育、著作）の応募受付期限が近づきました。

締切は7月15日(金)です。応募方法は以下のホームページでご確認ください。

<http://www.gisa-japan.org/awards/index.html>

## 代議員(社員)総会・理事会報告

### ■一般社団法人地理情報システム学会第46回理事会 議事録

[前事務局長 嶽網林]

開催日時：平成28年5月28日13時00分～14時50分

開催場所：東京大学工学部14号館145教室

理事全員が出席し、定足数を満たして成立した。

報告事項：

報告1 職務執行状況

- ・玉川財務担当理事から資料に基づき財務執行報告がなされた。
- ・奥貫編集担当理事から資料に基づき職務執行報告がなされた。
- ・山本支部・分科会担当理事から資料に基づき職務執行報告がなされた。
- ・太田資格担当理事から資料に基づき GISCA に関する職務報告がなされた。
- ・大場広報・大会担当理事から資料に基づき執務報告がなされた。
- ・小荒井担当理事から企画・渉外に関して資料に基づき職務執行報告があつた。
- ・小口教育・学会賞担当理事から資料に基づき職務執行報告がなされた。初等中等教育における地理の必修化への対応について議論した。コンソーシアムを作るなど、議論した。詳細は別途詰めることにした。

報告2 入退会会員リストについて

嶽事務局長から資料に基づき入退会状況についての報告があつた。

審議事項：

第1号議案 GIS 名誉上級技術者を推薦する件について、矢野会長を推薦することにした。

第2号議案 嶽事務局長から2015年度事業報告について説明があつた。議論、確認して承認した。

第3号議案 玉川財務担当理事から 2015 年度決算と会計監査について説明があった。議論、確認して承認した。

第4号議案 大佛理事から 2016 年度事業報告（案）について説明があった。議論、確認して承認した。

第5号議案 玉川理事から 2016 年度予算（案）について説明があった。議論、確認して承認した。

予定されていた議事をすべて終了し、議長が 14 時 50 分に本理事会の閉会を宣した。

## ■一般社団法人地理情報システム学会第 10 回社員総会議事録

### [理事 嶽網林]

開催日時：平成 28 年 5 月 28 日 15 時 00 分～16 時 14 分

開催場所：東京大学工学部 14 号館 144 教室

本年度の社員総数 42 名のうち 25 名が出席し、9 名が議決権行使書面を提出したことから、本総会は定足数を満たして成立了。

この総会は 2 年に一度の理事交代の回にあたるため、会を前半と後半に分け、その間に新体制を決定するための理事会を挟む形式で行われた。

前半は矢野会長の司会により行われ、以下 4 つの審議を行った。

### 第1号議案 2015 年度事業報告について

嶽事務局長が 2015 年度に実施した事業について配付資料に基づき報告があった。討議の後、満場一致で監査結果は承認された。

### 第2号議案 2015 年度決算と会計監査について

玉川財務担当理事から 2015 年度決算と会計監査について配付資料に基づき報告があった。引き続き浅見監事から会計監査内容について説明がなされた。討議の後、満場一致で監査結果は承認された。

### 第3号議案 理事及び監事の任期満了による退任について

議長が理事及び監事の任期満了による退任について配付資料に基づき説明した。討議の後、満場一致で退任は承認された。

### 第4号議案 理事及び監事の選任について

議長が 1 月に実施された選挙に基づき提案された理事及び監事の選任について配付資料に基づき説明した。討議の後、満場一致で提案は承認された。なお、被選任者は、いずれもその就任を承諾した。

15 時 30 分、以上で前半の審議を終え、休憩に入った。この休憩の間に第 47 回理事会が開催され、新体制が話し合われた。（後述）

16 時 00 分に理事会で新会長に選出された玉川理事の司会で社員総会が再開された。まず新体制として副会長に小口理事、事務局長として大佛理事が選任されたことが報告された。また引き続き、2016 年度事業計画を大佛事務局長が、2016 年度予算を玉川前財務担当理事が報告した。

以上で予定の審議・報告を全て終え、議長が 16 時 14 分に本社員総会の閉会を宣した。

## ■一般社団法人地理情報システム学会第 47 回理事会議事録

### [事務局長 大佛俊泰]

開催日時：平成 28 年 5 月 28 日 15 時 30 分～16 時 00 分

開催場所：東京大学工学部 14 号館 145 教室

出席者：理事 10 名、監事 2 名

定刻 15 時 30 分に、矢野監事が議長を務め開会を宣言した。理事全員の出席を確認し、本理事会が適法に成立している旨を告げた。

### 審議事項：

#### 第1号議案 会長及び副会長の選任について

以下の者が会長および副会長に推挙され満場一致で可決した。なお、被選任者はその選任を承諾した。

会長： 玉川英則 理事  
副会長： 小口 高 理事

#### 第2号議案 事務局長の選任について

以下の者が事務局長に推挙され満場一致で可決した。なお、被選任者はその選任を承諾した。

事務局長： 大佛俊泰 理事

ここで、議長を新しく選任された玉川会長に交代した。

### 討議 1

議長が理事の担当を決定したい旨を述べ、討議の後、次のように役割分担を決定した。なお、被選任担当理事は全員その就任を承諾した。

涉外担当：	小口 高 理事・副会長
財務・教育担当：	山本佳世子 理事
編集担当：	奥貫圭一 理事
企画担当：	小荒井 衛 理事
広報担当：	大場 享 理事
支部・分科会・総務担当：	嶽 綱林 理事
資格担当：	大伴真吾 理事
大会・学会賞担当：	貞広幸雄 理事
監事：	浅見泰司 監事 矢野桂司 監事

#### 第3号議案 2016 年度事業計画について

大佛事務局長が 2016 年度事業計画を決定したい旨を述べ、配付資料に基づき 2016 年度事業計画（案）について説明し、討議の後、満場一致で承認した。

#### 第4号議案 2016 年度予算案について

玉川会長が 2016 年度予算を決定したい旨を述べ、配付資料に基づき 2016 年度予算書（収支）について説明し、

討議の後、満場一致で承認した。  
予定されていた議事をすべて終了し、議長が 16 時 00 分に  
本理事会の閉会を宣言した。



社員総会の様子

## 委員会報告

### GIS 資格認定協会

[大伴真吾]

5月28日に平成28年度GIS資格認定協会第1回全体会議を開催し、昨年度の総括、今年度の計画等について報告、協議を行い、次の体制にて活動を行うことになりました。

代表 玉川英則（首都大学東京、GIS 学会会長）  
幹事長 大伴真吾（朝日航洋）  
幹事(広報担当) 浅野和仁（富田林市）  
幹事(会計・涉外担当) 佐藤俊明（パスコ）  
幹事(実力向上担当) 太田守重（国際航業）  
幹事(事務局長) 竹本 孝（国際航業）  
幹事 吉川 真（大阪工大）  
正木千陽（ESRI ジャパン）  
平下 治（ゼンリンジオインテリジェンス）  
資格認定委員長 田中一成（大阪工大）  
資格認定委員 山下 潤（九州大）  
松山 洋（首都大学東京）  
久保幸夫（創価大）  
大場 亨（市川市）  
池田晃三（アジア航測）  
島村秀樹（パスコ）  
中島 円（国際航業）  
和田陽一（国際航業）  
事務局員 渡辺美紀（国際航業）  
小澤 希（朝日航洋）

なお、5月31日時点の認定状況は次の通りです。

GIS 上級技術者数	370名
名誉 GIS 上級技術者数	19名
GIS 教育認定プログラム件数	28件

正味財產增減計算書

2015年4月1日から2016年3月31日まで

(单位:円)

一般会計		(単位:円)		
科 目		当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特 定 資 産 受 運 用 利 息 益		2,625	2,625	0
特 定 取 入 受 取 金 金		2,625	2,625	0
受 賛 会 員 会 収 金 費		200,000	0	200,000
受 正 学 会 生 会 収 金 費		200,000	0	200,000
受 正 学 会 生 会 収 金 費		14,477,000	14,633,000	-156,000
受 正 学 会 生 会 収 金 費		10,877,000	11,033,000	-156,000
受 正 学 会 生 会 収 金 費		450,000	550,000	-100,000
受 正 学 会 生 会 収 金 費		3,150,000	3,050,000	100,000
受 正 学 会 生 会 収 金 費		112,000	77,000	35,000
受 正 学 会 生 会 収 金 費		1,397,600	1,568,000	-170,400
受 正 学 会 生 会 収 金 費		548,000	468,000	80,000
受 正 学 会 生 会 収 金 費		82,000	65,000	17,000
受 正 学 会 生 会 収 金 費		331,000	439,000	-108,000
受 正 学 会 生 会 収 金 費		436,600	596,000	-159,400
受 正 学 会 生 会 収 金 費		1,771,762	1,858,651	-87,889
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		931,208	905,831	25,377
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		45,260	24,000	21,260
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		462,600	490,000	-27,400
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		423,348	391,831	31,517
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		686,000	660,000	26,000
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		686,000	660,000	26,000
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		34,554	33,820	734
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		120,000	260,000	-140,000
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		270,000	345,746	-75,746
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		150,000	240,000	-90,000
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		120,000	105,000	15,000
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		0	746	-746
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		0	94,785	-94,785
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		0	94,785	-94,785
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		0	94,785	-94,785
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		90,000	90,000	0
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		90,000	90,000	0
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		111,691	67,101	44,590
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		1,298	992	306
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		110,393	66,109	44,284
機関誌 (G I S 別 動) 収 益		18,432,678	18,737,908	-305,230
(2) 経常費用				
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	707,888	1,331,461	-623,573
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	196,250	209,000	-12,750
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	0	114,650	-114,650
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	17,042	0	17,042
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	0	10,044	-10,044
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	71,788	170,108	-98,320
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	0	125,659	-125,659
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	2,808	3,456	-648
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	420,000	698,544	-278,544
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	1,979,781	2,180,076	-200,295
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	423,696	492,372	-68,676
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	1,381,125	1,512,744	-131,619
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	23,760	24,840	-1,080
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	475,200	362,560	112,640
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	882,165	1,125,344	-243,179
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	174,960	174,960	0
大 会 会 会 会 通 消 託 支 慎 行	開 開 展 議 信 費	174,960	174,960	0
分 防 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	災 費 手 交 通 費	22,616	0	22,616
分 防 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	災 費 手 交 通 費	22,616	0	22,616
分 防 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	災 費 手 交 通 費	22,400	0	22,400
分 防 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	災 費 手 交 通 費	216	0	216
分 防 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	災 費 手 交 通 費	726,387	574,114	152,273
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	14,096	0	14,096
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	13,880	0	13,880
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	216	0	216
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	50,769	46,173	4,596
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	50,769	36,173	14,596
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	0	10,000	-10,000
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	92,000	200,056	-108,056
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	92,000	194,076	-102,076
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	0	5,980	-5,980
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	569,522	327,885	241,637
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	321,652	0	321,652
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	198,126	196,531	1,595
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	0	11,585	-11,585
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	36,720	56,160	-19,440
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	10,000	23,209	-13,209
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	0	35,000	-35,000
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	3,024	5,400	-2,376
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	132,634	136,512	-3,878
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	127,980	136,512	-8,532
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	2,950	0	2,950
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	840	0	840
企 業 旗 支 員 會 會 通 消 諸 支	面 費 手 交 通 費	864	0	864
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	64,904	90,038	-25,134
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	62,990	49,390	13,600
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	1,050	40,000	-38,950
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	864	648	216
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	30,000	30,000	0
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	90,000	0	90,000
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	11,112,347	11,037,614	74,733
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	4,382,381	4,040,100	342,281
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	3,222,101	2,899,125	322,976
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	1,160,280	1,140,975	19,305
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	1,125,000	990,420	134,580
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	93,436	0	93,436
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	682,891	653,977	28,914
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	374,463	394,641	-20,178
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	1,071,418	1,072,664	-1,246
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	357,085	574,666	-217,581
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	714,333	497,998	216,335
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	296,730	-296,730
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	296,730	-296,730
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	492,503	465,083	27,420
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	48,600	48,600	0
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	1,680,336	1,691,736	-11,400
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	70,805	70,881	-76
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	26,711	43,982	-17,271
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	388,800	388,800	0
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	3	0	3
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	665,000	870,000	-205,000
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	337,076	573,641	-236,565
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	7,346	15,825	-8,479
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	6,000	6,000	0
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	9,324	-9,324
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	1,346	501	845
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	110,107	216,155	-106,048
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	38,500	56,000	-17,500
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	69,606	64,206	5,400
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	76,000	-76,000
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	1,517	-1,517
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	1,353	1,532	-179
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	648	0	648
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	16,252	-16,252
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	56,847	60,454	-3,607
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	19,400	0	19,400
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	322	0	322
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	25,124	29,794	-4,670
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	11,137	0	11,137
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	864	0	864
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	123	-123
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	62,936	89,448	-26,512
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	45,120	8,600	36,520
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	15,050	-15,050
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	10,000	0	10,000
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	24,750	-24,750
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	7,600	29,911	-22,311
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	11,137	-11,137
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	216	0	216
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	99,840	98,402	1,438
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	56,640	74,750	-18,110
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	42,120	23,652	18,468
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	1,080	0	1,080
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	93,357	-93,357
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	32,920	-32,920
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	42,853	-42,853
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	16,612	-16,612
日本地 国 センタ一 研究 活動 支援費	旅 費	0	972	-972
II 指定正味財産増減の部	評価損益等調整前当期経常増減額	15,203,633	15,953,456	-749,823
II 指定正味財産増減の部	評価損益等調整額	3,229,045	2,784,452	444,593
II 指定正味財産増減の部	当期経常増減額	0	0	0
II 指定正味財産増減の部	経常外収益	0	0	0
II 指定正味財産増減の部	経常外費用	0	0	0
II 指定正味財産増減の部	当期経常外増減額	0	0	0
II 指定正味財産増減の部	当期一般正味財産増減額	3,229,045	2,784,452	444,593
II 指定正味財産増減の部	一般正味財産増減額	65,735,283	62,950,831	2,784,452
II 指定正味財産増減の部	一般正味財産増減額	68,964,328	65,735,283	3,229,045

### 収支予算書(収支)

2016年4月1日から2017年3月31日まで

(单位: 元)

科 目		予算額		前年度予算額		増 減	
I 事業活動収支の部							
1. 事業活動収入							
会 費	收 入	13,750,000	13,951,500	-201,500			
正 学 賛 会	員 会	10,450,000	10,488,000	-38,000			
大 正 学 生 会	員 会	360,000	463,500	-103,500			
大 正 学 生 会	員 会	2,940,000	3,000,000	-60,000			
大 正 学 生 会	員 会	1,250,000	1,300,000	-50,000			
大 正 学 生 会	員 会	420,000	400,000	20,000			
大 正 学 生 会	員 会	80,000	100,000	-20,000			
大 正 学 生 会	員 会	300,000	300,000	0			
大 正 学 生 会	員 会	450,000	500,000	-50,000			
刊 行 物	收 入	1,700,000	1,700,000	0			
機関誌 (G I S - 理論と応用) 収入		1,000,000	1,000,000	0			
機 関 誌 (大 会 誌) 収入		1,000,000	1,000,000	0			
大会講演論文集 (C D M) 通 布 収入		650,000	650,000	0			
大会誌 (C D M) 通 布 収入		650,000	650,000	0			
刊行物 認定登録料 収入		50,000	50,000	0			
資格申請登録料 収入		500,000	500,000	0			
資格登録料 収入		180,000	180,000	0			
資格登録料 収入		120,000	120,000	0			
支 部 新 事 業 支 支 収 入		200,000	200,000	0			
支 部 新 事 業 支 支 収 入		96,000	0	96,000			
支 部 新 事 業 支 支 収 入		96,000	0	96,000			
支 部 新 事 業 支 支 収 入		96,000	0	96,000			
支 部 新 事 業 支 支 収 入		80,000	80,000	0			
支 部 新 事 業 支 支 収 入		80,000	80,000	0			
2. 事業活動収入計		17,376,000	17,531,500	-155,500			
2. 事業活動支出							
大 会 開 会 費	支 出	1,000,000	1,020,000	-20,000			
大 会 開 会 費	支 出	300,000	300,000	0			
大 会 開 会 費	支 出	60,000	60,000	0			
大 会 開 会 費	支 出	30,000	50,000	-20,000			
大 会 開 会 費	支 出	160,000	180,000	-20,000			
大 会 開 会 費	支 出	10,000	10,000	0			
大 会 開 会 費	支 出	500,000	500,000	0			
大 会 開 会 費	支 出	2,530,000	2,530,000	0			
大 会 開 会 費	支 出	450,000	450,000	0			
大 会 開 会 費	支 出	1,900,000	1,900,000	0			
大 会 開 会 費	支 出	1,900,000	1,900,000	0			
大 会 開 会 費	支 出	180,000	180,000	0			
大 会 開 会 費	支 出	180,000	180,000	0			
分 類 料	支 出	722,000	307,000	415,000			
分 類 料	支 出	212,000	50,000	162,000			
分 類 料	支 出	0	50,000	-50,000			
分 類 料	支 出	25,000	0	25,000			
分 類 料	支 出	5,000	0	5,000			
分 類 料	支 出	182,000	0	182,000			
分 類 料	支 出	160,000	50,000	110,000			
分 類 料	支 出	60,000	50,000	10,000			
分 類 料	支 出	100,000	0	100,000			
分 類 料	支 出	80,000	0	80,000			
分 類 料	支 出	80,000	0	80,000			
分 類 料	支 出	50,000	80,000	-30,000			
分 類 料	支 出	50,000	80,000	-30,000			
分 類 料	支 出	50,000	80,000	-30,000			
分 類 料	支 出	80,000	0	80,000			
分 類 料	支 出	80,000	0	80,000			
分 類 料	支 出	30,000	47,000	-17,000			
分 類 料	支 出	30,000	47,000	-17,000			
分 類 料	支 出	60,000	0	60,000			
分 類 料	支 出	60,000	0	60,000			
分 類 料	支 出	2,770,000	1,970,000	800,000			
分 類 料	支 出	210,000	10,000	200,000			
分 類 料	支 出	150,000	0	150,000			
分 類 料	支 出	50,000	10,000	40,000			
分 類 料	支 出	10,000	0	10,000			
分 類 料	支 出	30,000	0	30,000			
分 類 料	支 出	30,000	0	30,000			
分 類 料	支 出	50,000	50,000	0			
分 類 料	支 出	50,000	50,000	0			
分 類 料	支 出	870,000	200,000	670,000			
分 類 料	支 出	0	200,000	-200,000			
分 類 料	支 出	10,000	0	10,000			
分 類 料	支 出	860,000	0	860,000			
分 類 料	支 出	120,000	120,000	0			
分 類 料	支 出	120,000	120,000	0			
分 類 料	支 出	200,000	0	200,000			
分 類 料	支 出	200,000	200,000	0			
分 類 料	支 出	50,000	50,000	0			
分 類 料	支 出	170,000	170,000	0			
分 類 料	支 出	170,000	170,000	0			
分 類 料	支 出	600,000	600,000	0			
分 類 料	支 出	50,000	50,000	0			
分 類 料	支 出	11,240,000	4,620,000	11,380,000			
分 類 料	支 出	3,400,000	3,400,000	0			
分 類 料	支 出	1,220,000	1,220,000	0			
分 類 料	支 出	1,250,000	1,250,000	0			
分 類 料	支 出	750,000	750,000	0			
分 類 料	支 出	500,000	500,000	0			
分 類 料	支 出	1,250,000	550,000	1,250,000			
分 類 料	支 出	700,000	700,000	0			
分 類 料	支 出	520,000	520,000	0			
分 類 料	支 出	50,000	50,000	0			
分 類 料	支 出	1,700,000	80,000	1,700,000			
分 類 料	支 出	80,000	0	80,000			
分 類 料	支 出	10,000	0	10,000			
分 類 料	支 出	100,000	0	100,000			
分 類 料	支 出	410,000	410,000	0			
分 類 料	支 出	650,000	650,000	0			
分 類 料	支 出	70,000	70,000	0			
分 類 料	支 出	60,000	60,000	0			
分 類 料	支 出	0	5,000	-5,000			
分 類 料	支 出	0	5,000	-5,000			
分 類 料	支 出	0	70,000	-70,000			
分 類 料	支 出	0	70,000	-70,000			
分 類 料	支 出	120,000	110,000	10,000			
分 類 料	支 出	120,000	110,000	10,000			
分 類 料	支 出	80,000	80,000	0			
分 類 料	支 出	100,000	100,000	0			
分 類 料	支 出	100,000	100,000	0			
分 類 料	支 出	100,000	100,000	0			
分 類 料	支 出	120,000	140,000	-20,000			
分 類 料	支 出	120,000	140,000	-20,000			
II 投資活動収支の部							
1. 投資活動収入							
投資活動収入計							
2. 投資活動支出							
投資活動支出計							
III 財務活動収支の部							
1. 財務活動収入							
財務活動収入計							
2. 財務活動支出							
財務活動支出計							
IV 当期収支差額							
前期繰越収支差額 (①)							
次期繰越収支差額 (②)							
総額							

## 学会後援行事等のお知らせ

### ■共催■空間情報シンポジウム 2016

主催：株式会社インフォマティクス

会期および会場：

2016年7月7日(木)東京、札幌、福岡、  
14日(木)大阪、21日(木)名古屋

詳しくは…

<http://www.informatix-inc.com/sympo16/index.html>

### ■主催■防災推進国民会議防災学術連携体 ワークショップ

主催：防災学術連携体（当学会も構成員です）

会期：2016年8月27日(土)、28日(金)

会場：東京大学山上会館（東京）

詳しくは… <http://janet-dr.com/index.html>

### ■主催■G空間 EXPO2016

主催：G空間 EXPO2016 運営協議会（当学会も構成員です）

会期：2016年11月24日(木)～26日(土)

会場：日本科学未来館（東京）

詳しくは… <http://www.g-expo.jp/>

### ■主催■防災学術連携体シンポジウム

主催：防災学術連携体（当学会も構成員です）

会期：2016年12月1日(木)

会場：日本学術会議講堂（東京）

詳しくは… <http://janet-dr.com/index.html>

### ■後援■IPIN2017 屋内測位とナビゲーション 国際会議 2017

主催：IPIN2017 実行委員会

会期：2017年9月19日(火)～21日(木)

会場：北海道大学国際交流会館（札幌）

## 事務局からのお知らせ

### ■測量系 CPD 学習プログラムのポイント付与について

2016年度に測量系 CPD 学習プログラムのポイントが付与されるのは、以下の対象者です。

大会で講演発表またはポスター発表した者

(発表者または第一著者のいずれか1名)

『GIS-理論と応用』に査読付き論文が採用された者

## 2015年度実績

<https://www.jsurvey-cpd.jp/pdf/programs/kyogikai/gisaja.pdf>

### ■『GIS-理論と応用』特集ページ募集

地理情報システム学会では、今後、地理情報システムと地理情報科学に関する最新の学術動向や社会からの要請を踏まえ、論文集『GIS-理論と応用』にふさわしい内容の特集ページを設けていきたいと考えています。

つきましては、広く会員の皆さまより特集のアイデアを募ることといたしました。

募集期限は設けず、随時応募を受け付けます。ただし、応募資格者は地理情報システム学会の個人会員に限ります。

また、応募された提案書は編集委員会にて審査され、提案が採用された場合、応募者には臨時編集委員をつとめて頂きます。

詳しくは下記の学会 web をご覧ください。

<http://www.gisa-japan.org/publications/sp.html>

### ■変更届等について

就職、転職、所属や自宅の場所が変わった等々の場合、速やかに変更届をご提出ください。変更はオンラインで出来ます。

<https://www.gisa-japan.org/member/login.php>

### ■『GIS-理論と応用』への広告掲載について

会員の方は、学会誌『GIS-理論と応用』に製品・技術等の広告を掲載することができます。ご希望の方は、学会事務局までご連絡ください。

#### 1. 広告料金 (A4・1頁単位) (消費税別)

後付 50,000円 (1回)

表紙3 (裏表紙の裏) 50,000円 (1回)

毎号に掲載の場合は、15%引きです。

#### 2. 原稿について

データでの提出(PDF原稿など26cm×18cm白黒印刷)

#### 3. 提出締切

(6月末発行No.1に掲載) 5月25日

(12月末発行No.2に掲載) 11月25日

#### 4. 発行部数 1,500部

### ■学会からの送付物へのチラシ封入について

会員の方は、「ニュースレター」『GIS-理論と応用』送付時に、書籍等広告のチラシを同封することができます。ご希望の方は、学会事務局までご連絡ください。

封入手数料 1部 20円×会員数

チラシ送付先、送付期限等については、直接事務局までお問い合わせください。

2016年5月末現在の個人会員 1141名、 賛助会員 59社

## 賛助会員

(2口)NTT タウンページ(株)

(1口)アクリング(株),朝日航洋(株),アジア航測(株),いであ(株),イントラマティクス, ESRI ジャパン(株),NTT データ数理システム, 愛媛県土地家屋調査士会, 応用技術(株), 大阪土地家屋調査士会, オートデスク(株), 株式会社オバ, 株式会社かんこう, 関東甲信越東海GIS技術研究会, 勝岐阜県建設研究センター, 九州GIS技術研究会, 協同組合くびき野地理空間情報センター, 近畿中部北陸GIS技術研究会, (株)こうそく, 国際航業(株), 国土情報開発(株), 株式会社古今書院, GIS総合研究所いばらき, ジェイアール西日本コンサルタンツ(株), (株)ジオテクノ関西, (株)ジオプラン, (株)昭文社, (株)ジンテック, (株)ゼンリン, (株)ゼンリンジオインテリジェンス, (株)谷澤総合鑑定所, 玉野総合コンサルタント(株), 中四国GIS技術研究会, テクノ富貴(株), デジタル北海道研究会, 東北GIS技術研究会, (株)ドーン, 長野県GIS協会, にいがたGIS協議会, 日本情報経済社会推進協会, 日本スマートマップ(株), (株)日本測量調査技術協会, 日本土地家屋調査士会連合会, (株)日本地図センター, パシフィックコンサルタンツ(株), (株)パスコ, 阪神高速技研株式会社, 東日本総合計画(株), 北海道GIS技術研究会, (株)マップエスト, (株)松本コンサルタント, (株)三菱総合研究所, 三菱電機(株), (株)リモート・センシング技術センター  
自治体会員:(1口)経済産業省特許庁, 総務省統計局統計研修所, 長野県環境保全研究所, 福岡県直方市

## 学会分科会連絡先一覧

●自治体: 浅野和仁 (大阪府富田林市)

事務局: 青木和人 (あおきgis研究所 Tel 050-5850-3290)  
E-mail : kazu013057@gmail.com

●ビジネス: 高阪宏行 (日本大学 Tel 03-3304-2051)

E-mail : kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp

●防災GIS: 畠山満則 (京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333)

E-mail : hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp

●土地利用・地図GIS: 碓井照子 (奈良大学)

事務局: 西端憲治 (株セイコム Tel 0721-25-2728)

E-mail : totiriyo-sig@seicom.jp

●時空間GIS: 吉川耕司 (大阪産業大学 Tel 072-875-3001)

E-mail : yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp

●地図・空間表現: 若林芳樹 (首都大学東京 Tel 042-677-2601 )

E-mail : wakaba@tmu.ac.jp

●セキュリティSIG: 内布茂充 (行政書士 内布事務所 Tel 090-2284-4125)

E-mail : spcn87q9@royal.ocn.ne.jp

●FOSS4G分科会: Venkatesh Raghavan (大阪市立大学)

連絡先: 嘉山陽一 (朝日航洋(株) TEL049-244-4032)

E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp

●若手会員分科会: 山本佳世子 (電気通信大学 Tel 042-443-5728)

E-mail : k-yamamoto@is.uec.ac.jp

●IoTとGIS: 斎藤林 (慶應義塾大学 Tel 0466-49-3453)

E-mail : yan@sfc.keio.ac.jp

## 地方支部の連絡先一覧

<北海道支部>

支部長: 小樽商科大学 深田秀実  
Tel : 0134-27-5399, E-mail : fukada@res.otaru-u.ac.jp

<東北支部>

支部長: 東北大學 井上亮  
Tel : 022-795-7478, E-mail : rinoue@plan.civil.tohoku.ac.jp

<北陸支部>

支部長: 新潟大学 牧野秀夫  
Tel : 025-262-6749, E-mail : makino@ie.niigata-u.ac.jp

<中部支部>

支部長: 中部大学 福井弘道  
連絡先: 杉田暁 (中部大学)  
Tel : 0568-51-9894 (内線 5714), E-mail : satoru@isc.chubu.ac.jp

<関西支部>

支部長: 大阪工業大学 吉川眞  
連絡先: 田中一成 (大阪工業大学)  
Tel : 06-6954-4293, E-mail : gisa@civil.oit.ac.jp

<中国支部>

支部長: 広島修道大学 川瀬正樹  
Tel : 082-830-1210, E-mail : kawase@shudo-u.ac.jp

<四国支部>

支部長: 高知大学 松岡真如  
Tel : 088-864-5166, E-mail : msykmtok@kochi-u.ac.jp

<九州支部>

支部長: 九州大学 三谷泰浩  
Tel : 092-802-3399, E-mail : gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp

<沖縄支部>

支部長: 琉球大学 町田宗博  
E-mail : machida@l1.u-ryukyu.ac.jp  
連絡先: 澤嶼 直彦 (特定非営利活動法人沖縄地理情報システム協議会)  
Tel : 098-863-7528, E-mail : takushi@okicom.co.jp

### ■ 編集後記 ■

玉川先生が新会長に就任され、今年度も本格的にスタートいたしました。

この書き出しあは会長のお名前こそ変われども、2年前と一緒です。然しながらGISを取り巻く状況は大きく変わって参りました。学会も今年で25周年何か変わりそうな予感がします。新しい試みや学会員だけではなく様々な人々や団体間の協働など、変革を起こせたら良いなと思う次第です。

ニュースレターは新たなメンバー構成で皆様にお読みいただけるような紙面づくりを心がけますので、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。(ここも前からコピペですすみません)

谷口 彰(GIS 総合研究所&応用技術株式会社)

地理情報システム学会ニュースレター

第98号 ●発行日 2016年6月20日

### ■ 発行

## 一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階  
TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org

URL: <http://www.gisa-japan.org/>

### ■ 弥生雑記 ■

とても残念なことだが、災害時にデマはつきものだ。4月の熊本地震の際も、SNSによって拡散された類が数多くあり、被災地の大学のゼミが警察に捜査協力しているニュースを目にした。現地で極限状態に置かれた人々の恐怖や不安から生じた噂がデマとして広がったのではなく、SNSの向こう、安全な場所から無責任にデマを発し拡散する人品の卑しさに、嫌悪感が募る。

明治22年(1889)7月28日深夜、今回の被災地域と重なるようにM6.3の地震があった。遡ること明治13年(1880)に世界で初めての地震学会が日本に設立され、明治3年(1871)に日本で初めて日刊紙が創刊されている。科学的調査が初めて実施され、報道された地震でもある。この時も熊本の金峯山が噴火するという噂が広く流れたが、専門家による調査を受け、8月3日に新聞が号外を発行して安全を報じると、騒ぎは沈静化したという。

デマは恐怖や不安や不信に依って、心に放たれる火である。その鎮火方法も、大規模災害の際には心を配る必要があるようだ。

(学会事務局)